

警戒度レベルの判断に使用する指標及び目安の見直しについて

見直しのポイント

- ワクチン接種の進捗や治療薬の実用化等により、軽症者の割合が多くなり、重症者としての入院病床の利用も減少しているため、新規感染者数の増減よりも病床のひっ迫状況をより重視して警戒度を判断する。
- 可能な限り経済活動を維持しつつ、遅滞なく必要な措置を講じる



- 「ステージ」→「レベル」とし、医療体制の強化等も踏まえて警戒度のレベル分析及び基準となる数値を見直し
- 感染及び医療の状況についての“予測ツール”の活用
- 警戒度判断のための主な指標を次のとおり変更（病床のひっ迫状況を重点的に監視する。なお、判断のための主な指標とはしない指標についてもモニタリングを継続し、総合的な判断に活用。）